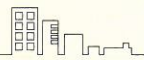


活動報告



理学療法士としての就労人生の中で遭遇する出来事

会員ライフサポート部 (大槻かおる)

会員ライフサポート部
活動報告
職場環境を考える

第44報

◇これまでを振り返ってみると…

21歳で理学療法士として就労人生を歩みだしてから30有余年。様々な出来事に遭遇した。結婚・出産・夫の転勤による転居と離職・再就職・夫の単身赴任による偽母子家庭・1か月の長期研修・親の介護・看取り等々。それでも、理学療法士としての離職は合計で2か月弱だったが、その分、出産休暇は勿論、子の看護などで色々な人に助けて頂いた。親や、職場の人、保育園の親仲間、近所の方……。

そして、ようやく助ける側に専念出来るようになったと思った矢先。病気による予期せぬ療養休暇。1か月半の急な休みを取らざるを得なくなった。まさに助ける側が、明日には助けられる立場になってしまったのである。療養休暇も一定期間休むと復職の診断書が必要になることも初めて知った。情報の内容不足と量の不足があることを改めて感じ、深く反省している。

会員ライフサポート部は前回の報告の通り10月13日に研修会と交流会を実施した。交流会で珍しく若い男性だけのグループが出来、そのグループの「働き続けるために必要な事」で真っ先に出されたことが、「給料」。思いがけない視点でありながら非常に納得できたことであった。確かに不景気による給与削減や昇給停止など、殆どの会員に共通する懸念事項であろう。そのほかにもサービス残業、病院の倒産など、まだまだ、考えていかなければならない事柄は多岐にわたっているといえる。

そこで会員の皆さんにお願い

会員ライフサポート部のメールサポートメンバーになって、色々な視点からの御意見を頂きたい。

ご連絡はこちら lifesupport@pt-kanagawa.or.jp

◇お知らせ

第49回日本理学療法学会大会での会員ライフサポート部事業のお知らせ

ライフサポートセミナーを
会員ライフサポート部の企画で開催します

- 日時：平成26年5月31日（土）13:00～16:00
- 場所：パシフィコ横浜（詳しくは学会の案内をご参照ください）
- 内容：2部構成で1部は講演会、2部はシンポジウム形式です。講演会では、男性・女性の体の特性を知り、スタッフ間もお互いを思いあえるような知識を一つ増やしていただきたいと思い、企画しました。シンポジウムでは、出産育児による離職経験の女性会員・育児休業を取得した男性会員・在宅介護を経験した男性会員・職場の管理者の立場の男性会員の4名をシンポジストに、出産・育児・介護における問題点を出して頂き意見交換を行います。皆様、ぜひご参加ください。

訃報

本会の初代会長であった若月督司氏（写真右端）が1月16日逝去されました。83歳。

先生は本会が設立された昭和45年1月15日の設立総会で会長に推挙され、その後45年度46年度の2年間会長の職を務められました。

県立厚木病院（当時）に22年間奉職し、昭和59年には日本理学療法士協会賞、昭和61年には神奈川県保健衛生表彰を授与されました。

設立時の会員数はわずか62名。設立時の役員には若月先生をはじめ、その後の歴代会長となる谷島朝生先生（第2代）、大内二男先生（第3代）、村井貞夫先生（第4代）が名前を連ねていますが、少人数で本会の基礎を築かれた先生のご苦勞は如何ばかりであったろうか、と頭が下がる思いです。

昨年の公益社団法人移行の祝賀会にはお元気なお姿を拝見したばかりですが、謹んでご冥福をお祈りいたします。

(会長 秋田裕)

